



日文研・アイハウス連携フォーラム

安全保障論議の30年

—「平成」と「冷戦後」を考える

講師：楠 綾子（日文研准教授）

コメンテーター：竹中 治堅（政策研究大学院大学教授）

2020年 2/26（水） 6:30-8:00 pm（開場 6:00 pm）

会場：国際文化会館 講堂 用語：日本語（通訳なし） 参加費：無料（要予約）

平成の30年は、冷戦終結後の30年でもありました。この間、国際情勢は著しく変化し、中国の台頭と超大国アメリカの変容、グローバリゼーションの急速な進展によって国際政治の構図が書き換えられる中、日本の外交・安全保障政策もまた少しずつ変化していきました。にもかかわらず、2015年の平和安全法制をめぐる議論をはじめ、安全保障に関する日本国内の議論は、冷戦終結直後と今日とでほとんど変わっていないようにも見えます。本講演では、過去30年間の安全保障論議の検証を通して、冷戦後の日本の安全保障政策について考察します。



楠 綾子（日文研 准教授）

神戸大学大学院法学研究科博士後期課程修了、政治学博士。関西学院大学国際学部准教授などを経て、2015年より現職。専門分野は日本政治外交史、安全保障論。主著に『吉田茂と安全保障政策の形成』（ミネルヴァ書房、2009年）、『占領から独立へ 1945～1952』（吉川弘文館、2013年）、『失われた20年』における外交・安全保障論争（『創発する日本へーポスト「失われた20年」のデッサン』アンドルー・ゴードン、瀧井一博編、弘文堂、2018年）など。



竹中 治堅（政策研究大学院大学 教授）

スタンフォード大学政治学部博士課程修了。1999年に政策研究大学院大学助教授に就任し、准教授を経て2010年より現職。この間、2003～04年はスタンフォード大学客員研究員。専門は比較政治、日本政治。著書に『首相支配—日本政治の変貌』（中央公論新社、2006年）、『参議院とは何か—1947～2010』（同、2010年、大佛次郎論壇賞）、『Failed Democratization in Prewar Japan』（Stanford University Press、2014年）など。

❖ 国際文化会館（アイハウス）と国際日本文化研究センター（日文研）は、多角的に現代日本の理解を深めるためのフォーラムを、シリーズで共催しています。

お申し込み・お問い合わせ

国際文化会館 企画部

（月-金 9 am-5 pm）

東京都港区六本木5-11-16

TEL:03-3470-3211

E-mail: program@i-house.or.jp

https://www.i-house.or.jp

